

仏事ひとくちメモ

宗祖親鸞聖人 750回御遠忌法要へ お参りください。

名古屋教区・名古屋別院では、2016年4月22日～24日・26日～5月1日、宗祖親鸞聖人の御遠忌法要をお勤めします。

50年ごとに営まれてきた御遠忌法要は、盛大な法要や宗祖の歩みに尋ねる法座が開かれ、またまたそれぞれの時代に応じて様々な課題に向き合う機縁を開いてきました。

皆様お一人お一人にとっての御遠忌となるよう、ぜひお参りください。



「親鸞聖人
650回御遠忌法要」
庭儀の様子



「親鸞聖人
700回御遠忌法要」
団体参拝の様子



真宗大谷派名古屋教区
名古屋別院
宗祖親鸞聖人
750回御遠忌法要

御遠忌テーマ

「ともに生きる一いのちのつながり」

2016年4月22日～24日、26日～5月1日



真宗大谷派名古屋別院 (東別院)

〒460-0016 名古屋市中区橋2-8-55

TEL052-321-9201 FAX052-321-3184

お東ネット

検索

<http://www.ohigashi.net/>

お
彼^ひ
岸^{がん}

OHIGASHI

真
実
の
教
え
に
出
遇
う

お彼岸

— 真実の教えに出^で遇^あう —

お彼岸とは「浄土」つまり、仏様の世界のことです。こう申しますと、一般的には「死後の世界」や「亡くなった人のいる世界」というような意味合いで捉えられることも多いようです。お彼岸の時節にあたり、改めて我々、真宗門徒にとってのお彼岸をたずねてみたいと思います。

テーマにもあります「真実の教えに出会う」の「真実」は、読み変えれば本当に実るということです。

彼岸に対して、我々が日暮らしを重ねるこの人間世界を此岸(しがん)と申します。与えられた此岸の暮らしにおいて、実りへの歩みは進んでいるのでしょうか。例えば、りんごは若く青いうちは酸っぱいですが、実れば赤くおいしくなります。人間に置き換えれば若いころより歳を重ねた方がより充実し、幸せであるということです。

しかし省みますと、幸せになりたいと願いながら欲望充足にかかりはてる毎日です。ある意味では生きた年数だけ、幸せになりたいと願い続けて来たのですから、歳を重ねれば重ねるほど、幸せだなあと実感

できていいはずで。それにもかかわらず、思いに反して不平不足の多い我が身であるとするならば、これは本当に実っていく姿ではありません。一刻も早く本当に実る「真実の教え」に出遇わなければならないということでもあります。

十六年前に亡くなった私の伯父の辞世の句を紹介します。

「なりゆきが 遠い昔の約束と
弥陀に抱かれて ゆりかごの中」

ご縁をいただいていた法話に赴いていた伯父でしたが、七十歳を前にして病によって言葉が話せなくなってしまいました。その病床で詠んだ句であります。

私たちは喜びごとは躍り上がるように受け止めますが、都合の悪いことは抗^あって苦しみます。それは、決してゆりかごのような世界ではありません。

この句では、人生において我が身におこる様々な事柄は、自分の思いや計らいを超えて、それこそ自分が生まれる以前、遠い昔からの約束「宿縁^{しゆくえん}」であったとだけ、そこは仏様に抱かれたゆりかごの中で

あったと詠われています。

抗う世界からゆりかごの世界へと転じていくのは、他ならない本当に実る教え、言葉に出遇うところから歩みが始まります。

明年、名古屋別院で厳修される御遠忌法要のテーマは「ともに生きる—いのちのつながり—」であります。ともにとは、決して今生きている我々という狭い括りではなく、先立たれた先祖、ひいては親鸞聖人、お釈迦様とともにつながり生きることでもあります。その計らいを超えたつながりを通して、ゆりかごの世界に生きる身へとお育てをいただくのです。亡き人に思いを馳せ手を合わす彼岸の時節、遠い昔の約束に耳を傾けたいと存じます。



うめやま まさき
榎山 正樹 (稲沢市・教西寺住職)